

高耐食ねじ販売強化

神山鉄工所、引き合い倍増

環境性も評価

ドリルねじなど各種ねじを製造販売する神山鉄工所(本社Ⅱ大阪府東大阪市、神山貴至社長)は、独自の表面処理技術を実施した製品販売に力を入れている。鉄製ねじ向けの高耐食電気亜鉛めっき「ゼロクロメート」や、ステンレス製ねじ向けにステンレス材やハイテン材に対して焼き付きにくい高耐食表面処理「ブランカ」を数年前に開発。ともに三価クロムや六価クロム、コバルトなどの有害物質を使用しておらず、建築や自動車用など幅広い用途で、塩害地域をはじめ特殊な環境にも使用できる。現在は前年比で2倍以上の引き合いが伸びている。

塩害に強く用途幅広い

ゼロクロメートは、塩水噴霧試験で8000時間以上赤さびが発生せず、従来のユニクロめっきの10倍以上の耐食性能を持つ。欧州の特定有害物質規制(RoHS)や化学品規制(REACH)に対応しており、環境に優しい。めっきの表面は独自の「ゼロクロメート特殊化成被膜」で厚さが1μm、その下の亜鉛皮膜が8μmとシオレットなどと比べて薄膜で、ねじの十字穴の嵌合性も高い。ブランカはステンレス製ねじ向けで、クロム系SUS410製であれば厚さ3μmまでのステンレス鋼板やハイテン鋼板にも焼き付くことなく施工できる。従来ねじと比べて表面が硬く、ねじ山が摩耗で丸まらない。ねじ込みトルクも従来から約30%軽減でき、作業効率向上にも大きく貢献する。

塩水噴霧試験では、1万時間以上赤さびが発生しなかった。アルミ板やガルバリウム鋼板に施工した場合でも電食が起きにくい。ゼロクロメートと同じくRoHSとREACHに対応し、塩素やアルカリ、アンモニアにも一定の効果を確認できている。さらに自己治癒性能があるため、傷がついても高耐食を維持できる。

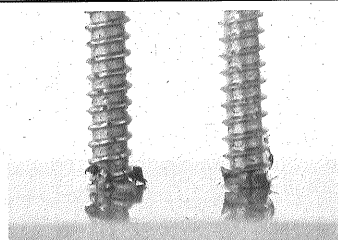
新事務所で業務開始

マツオメタル、倉庫も刷新

小野建グループでステンレス鋼販売のマツオメタル(高松市)は、本社事務所と倉庫のリニューアル工事が完了、9月から新たな事務所業務を開始した。

同社は今年3月1日付で全株式を小野建に譲渡し、グループの傘下に入った。同月に倉庫上部の看板を塗り替え、8月から本社1階事務所の底上げ工事、壁紙の張り替え、トイレの改装など社員が働きやすい職場づくりに着手した。リフォームに合わせて、従業員のデスクといった備品も

新調した。マツオメタル専務兼小野建丸井業所長の新田淳氏



従来品(左)とブランカの比較。ブランカは焼き付かず、ねじ山も丸まらない。

鉄鋼業界で働く

Work

女性経営者編 — インタビュー

有力製造メーカーである昭和電気鋳鋼(本社Ⅱ群馬県高崎市)の手塚加津子さんは、2代目社長である父・天野和雄氏の急逝によって、2

に任せろ」という感じで、私に家業を継がせる意思はありませんでした。大卒卒業後は母校で歴史の

「と強く思いました。当時、本社工場は設備の老朽が激しく、社員も会社存続するの不安に思っていたので、着眼点として、12年には国内立地推進事業費補助金を活用し、3ヶ所高周波誘導炉を、設備のリプレスを毎年計画し、一歩ずつ着実に実行しました。この一環として、風土を重なる。動、Vマネシ(化)活



産業春秋 今井 敬氏

久野産業社長 久野実氏